

6月23日O.A. テーマ「ダウン症」

“ダウン症”って何？

スタジオ出演 ◆あべ けん太 (あべ・けんた) …タレント ダウン症

今村 裕治 (いまむら・ゆうじ) …NHKディレクター

ナレーション ◆神戸 浩 (かんべ・ひろし) …俳優

はるな愛 : は～い。 “バリアフリー・バラエティー”「バリバラR」の時間です。

パーソナリティーのはるな愛です。よろしくピース！

「バリバラR」は、毎週金曜日よる9時、Eテレで放送している障害者情報バラエティー「バリバラ」のラジオバージョンです。テレビでは紹介できなかった裏話やお得情報を、プラスしてお伝えしていきたいと思います。

今日のテーマはですね、“ダウン症”って何？ 今村裕治ディレクターといっしょに進めていきたいと思います。よろしくをお願いします。

今村D : 今村です。よろしくをお願いします。

はるな愛 : そしてゲストは、あべけん太さんです。

けん太 : どうも～。けん太で～す。

はるな愛 : お久しぶりで～す。

今村D : あべけん太さんは現在26歳。ダウン症のタレントとして、芸能事務所に所属してはですね、演劇や殺陣とかね、いろんな稽古をしながら舞台などで、活躍されているタレントさんです。去年12月に放送して、はるなさんも出演していただいた「バリバラ」の障害者サミットでも、障害者の人たちが自分たちがこうしたらもっと生きやすいのっていうルールを提案するっていう番組だったんですけども、そこでも、ルールを提案する提案者として出演してくれたけん太さんです。

はるな愛 : 確か、知的障害者と呼ばないというルールを提案してましたよね。

今村D : けん太さんはダウン症ということで、実際知的障害はあるんだけど、知的障害者っていう呼ばれるのがすごく嫌だということから、「知的障害者呼び名禁止令」というのをい出されて、視聴者から生放送の中で、投票を募ったところですね、賛成が多かったんだよね。

けん太 : 良かったですね～。これ、反対だったら、あんて。

今村D : 78%も賛成が来て、採用になったというようなことをテレビでやったんですけどもね。

はるな愛 : けん太くんは、知的障害者って呼ばれるのは嫌なんですか？

けん太 : そうなんですよ。頭にバカにされてる・・・かなって思うんですよね。

はるな愛 : ダウン症と呼ばれるのはどうなんですか？

けん太 : ダウン症は、友だちがいっぱいいてくれて、作れるし、はるな愛ちゃんも含めて、100%かなと。

はるな愛： どういうこと？ どういうこと？ いいの？ いいの？

けん太： はい、もう全部。・・・いいです。

はるな愛： 今日はね、ダウン症について、教えてもらえるってことで。

今村D： テレビの方ではですね、実際私も、街頭で街の人にダウン症について知ってますか？ということを知りましたし、けん太さん自身も、渋谷で街頭のインタビューしたんだよね。

けん太： しました。

今村D： ダウン症ってどういう人たちのことを言うと思いますか？っていう風に質問しても、やっぱりなかなかみなさん、詳しくはよくわからないなっていう人たちがやっぱりすごく多かったかなというのが印象ですね。

はるな愛： なんかこう説明できないですよ。そういう方、多いと思うんですけども、そもそもダウン症って、どういう障害なんですか？

今村D： ダウン症というのはですね、染色体の数が通常より一本多い先天性の障害なんですね。生まれつきのもので、割合としては、だいたい千人に一人ぐらいの割合でいらっしゃるという風に言われています。いろんな疾患をとまなうこともあるんですけども、多くの方がですね、先程、けん太さんが知的障害者と呼ばれるのは嫌だという風におっしゃってましたけども、実際、知的障害を伴う方がすごく多い障害でもあります。ただですね、どのくらいの知的障害があるかとかですね、どのくらいできることとできないことがあるのかとか、それも様々なんですね。それは健常者の人が一人一人違うのと、同じことだとは思うんですけども。

はるな愛： 個性がいろいろあるように、いろんな方の症状があつたりとかするのがダウン症でもあるっていうことですね。なるほどね。

今村D： 基礎的なこういう教科書の知識は一応私が本を読んで聞きかじりで、今、伝えたんですけども、結局は、やっぱりその人、一人一人を見て行って、で、その中でダウン症の人達ってこんな人たちなのかなっていうのが、わかるといいなという風に思ってますし、けん太さん自身も、やっぱり自分のことをとにかく知ってほしいということで、けん太さんがご自身についてのクイズを作ってきたというわけです。

はるな愛： クイズ？

けん太： そうなんです。「クイズあべけん太」です。

はるな愛： 今回はダウン症のあべけん太さんのクイズ、これをどんどん問題解いていけばいろんなことがわかるということですね。

けん太： はい。

今村D： そうですね、今日はけん太さんが作ってくれたクイズを通してですね、まもちろん、ダウン症のこと全てわかる訳じゃないんですけども、まずはやっぱりけん太さんのことを知ってもらうことで、ダウン症の人がどういう人たちなのかなっていうことを少しだけでも、知ってもらえたらいいかなというふうに思っています。

はるな愛： わかりました。

今村D： じゃあ、第一問なんですけれども、録音を聞いていただきたいと思うんですが、ナレーションは俳優の神戸浩さんです。

けん太： 録音スタート！



<録音① 問題1>

ナレ) けん太さんは現在、IT関連の企業で働いている。

(パソコンに向かう)

ナレ) 総務グループの社員として、台帳の作成や郵便物の整理などをまかされている。

(観葉植物に水をやる)

ナレ) どんな簡単な仕事でも決して、手を抜かない。

丁寧な仕事ぶりは社内でも高く評価されている。

けん太：ベリーグッド。

(上司)

部長： テンポ的には結構スローなんですけど確実にね、丁寧にさっきも言ったんですけど、スローに
なんだけどやってくれる。けん太、モットーはなんだっけ？けん太のモットー。

けん太：モットーは集中、より丁寧に確認、で、確認漏れがないように集中することと。

部長： それを常に意識してますんで。

父： 今日もお疲れ。

(自宅で乾杯する、父・兄・けん太さん)

ナレ) 家族はけん太さんを「障害者」として見るのではなく、一人の大人として自然に接してきた。

(けん太さんがビールをあおる)

けん太： ああ

父： じじくせえ。

兄： 最近おまえちょっと腹出てきたんじゃないの？

けん太： さわんなよ。父さんまで。

ナレ) 家族の中では、突っ込まれ役の愛されキャラ。

兄： イケメンのダウン症って言って。

D： ダウン症のことは好きなの？

けん太： はい、まあ、イケメンがね。

父： そんなにこだわらなくてもいいんじゃないの？イケメンに。どんだけお前がイケメンか。

兄： 冗談は顔だけにしろって言われるよ。

けん太： うまい。

ナレ) さて、ここからが問題！

どんなこともひたむきに取り組むけん太さんが最も自慢しているものがある。

挑戦すること55回。およそ1年がかりで獲得したもの。快拳に家族中が沸いた。

けん太さんが自慢しているものとは、一体何？

はるな愛：お仕事、私、知らなかったんですけどITの企業の会社員もやってるんですか。

けん太： はい。

今村D： で、そういう職場で、もう熱心にひたむきに取り組んでいて、家族の中では皆を楽しませているけん太さんのクイズの第一問がですね、まあ、あの、けん太さんが自慢しているものと。

はるな愛： なんか、55回とか回数言ってたので、お箸で、小豆の豆を運ぶみたいなこう。1分間に何粒運ぶかみたいなの。

けん太： 違うすね～。

今村D： 挑戦して獲得したものってということなんで。

はるな愛： 55回挑戦して獲得……。なんか、取れるものですよ、だから。え？55回、取れるもの？え～？ちょっと難しい……。ちょっとなんかヒント。

今村D： けんちゃんなんかある？

はるな愛： ヒント下さい。

けん太： ヒントは、まあ、カードですね。

はるな愛： カード？えっと～、何だろう。カードで獲得できるもの……トランプの、あの、こう、くるやつみたいなの？片手で。

けん太： 違う。

はるな愛： どうなんだろう、もう何？ わかんない。正解お願いします。

今村D： じゃあ、けん太さん、録音のフリをお願いします。

けん太： わかりました。録音スタートピース！



<録音② 答え1>

ナレ) 正解は、普通自動車の運転免許証。

試験に落ちていた当時の日記を見せてもらった。

けん太： 試験の当日、一生懸命にがんばったが74点で不合格となりました。

ナレ) 文章の読解が苦手なけん太さん。筆記試験のひっかけ問題に苦戦し、なかなか合格点を取れなかったという。

けん太： 試験の当日、不合格だった。またかよ！

兄： またかよ。

父： だってこれ54回あるんだからさ。

父： 人待ちのための停車は構わない。

けん太：これだめ、誤。

ナレ) 家族皆が持っている免許を自分も取りたい。けん太さんは、目標に向かって着実に勉強を続け、6年前、見事合格したのだ。

はるな愛：すご〜い。おめでとう！（拍手）

けん太： ありがとうございます。

はるな愛：55回落ちたの？どこが難しかったんですか？

けん太： やっぱ、全部が、なんか。

はるな愛：全部が問題大変だった？

けん太： もう大変でしたね。

今村D： 実技はすぐ受かったんだよね。

けん太： 実技は、まあまあ、ま、できるんですけど、筆記が、筆記がもう大変でしたね。

はるな愛：結構難しかった？

けん太： 結構難しかったですね。

今村D： けん太さんは、漢字とかすごい得意でね、

けん太： はい、もう、得意で。

今村D： たくさん知ってるんですけども、なかなかその文章を読解するとか、ていうことがちょっと苦手な部分があって、どうしてもひっかけ問題みたいなのが

はるな愛：あるんですよ。

今村D： 停車してもよい、みたいな、駐車はいけないみたいな・・・なんかこう微妙な問題をなかなかその勉強してあの、事実自体はわかっていくんだけども、文章がどういう意味かっていうのをとっていきってということがやっぱりすごく難しかったみたいで。

はるな愛：ま、でも、それは結構私もそうだな。そうなんだ。

けん太： そうなんですよ。

はるな愛：でも、55回。しぶとく行ったね。

けん太： 55回目でもう、ゴーゴーって感じですね。

はるな愛：どういうこと？（笑）でも、嬉しかったでしょ？

けん太： もう嬉しくて、嬉しくて。はい。

はるな愛：でも、やっぱり、こういう目標に向かって、すごいですね。諦めない気持ちはね。

今村D： そうですね。ま、けん太さん、皆さんダウン症の方が、じゃあ、みんな55回、あきらめずにやって免許みんな持ってるかと言ったら、そうじゃないので、全ての人に言えるってことではもちろんないんですけど、ただですね、やっぱりあの、ダウン症の人達取材してて、すごく思うのは、やっぱりやりたいこととか、守んなきゃいけないことに対して、すごくこう、真正面から、きちんとできる人が多いですし、やりたいことに関しては、すごく地道に取り組みられて、達成されている方々たくさん、

いらっしゃるし、企業でも、多様な働き方ですけども、自分なりの仕事をきちんと役割を果たして、やってらっしゃる方というのがすごく多いなという印象は受けてます。

はるな愛：なるほどね～。なんかピュアでまっすぐですもんね。

けん太：ありがとうございます。

今村D： というようなことで、第一問やってきたんですけども、続いて、じゃあ第二問行きましょうか。

けん太： 録音、スタート！



<録音③ 問題2>

ナレ) いろんな特技があるけん太さん。その一つを見せてもらった。

それは絵画。

絵を始めて9年。アクリル絵の具などを使って自分の好きな人物や動物を描き続けている。

勢いのある筆遣いと大胆な構図。なかなかの腕前だ。



けん太：もう、画伯です。

ナレ) さて、ここからが問題。

けん太さんが月に2回通っている絵画教室。

ダウン症や自閉症などの人たちが思い思いのテーマで作品に取り組んでいる。

ユニークな表現で、アートの才能を開花させている人たちも多い。

そんな中、けん太さんが最もこだわって描き続けているテーマがある。

今でも描くのが大好きという絵のテーマとは一体何？

はるな愛：ちょっとね、ここにあの、絵があるんですけども、めっちゃめっちゃ、うまい。

けん太：ありがとうございます。

はるな愛：すごく立体感もあって、なんかほっとする絵ですね。

けん太：ありがとうございます。ホントになんか、超嬉しいです。

はるな愛：え～、だって、もっと描いていたら、本格的に、どうなんです？

今村D： 結構、熱心に今でも描いて。

けん太： 描いてます。

はるな愛：私も、描いてほしいと思っちゃう。

けん太： OKです。

はるな愛：ほんとに？

けん太： はい。

今村D： ダウン症の方、やっぱりユニークな表現をされる方が多いので、そういう方面で才能発揮される方も結構いらっしゃるというのが、あの、印象としてはありますね。

はるな愛：すごいわ～。

今村D： ま、けん太さん、色々今、あの、持ってきてはいるんですが、ま、一番好きなテーマがあると。

はるな愛：それがクイズでしたね。

今村D： そうです。

はるな愛：一番好きなテーマは、う～ん。・・・女性の裸体。

けん太： う～ん・・・近い！

はるな愛：近いんだ。びっくりした。ブ～とか言うかと思った。(笑)そこ、めちゃめちゃ悩んだじゃん。ためたじゃん。今まで以上に。

今村D： 確かに近いですね。

けん太： 近いですね。

今村D： その裸体なんですけど、その中でも好きな部分っていうんですかね。

はるな愛：裸体は合ってるんですか？

今村D： はい。

はるな愛：え？裸体？・・・こんな朝からいろいろラジオで言えないですよ。言っているんですか？おっばい。

けん太： 正解。

はるな愛：早い。だから、早い。正解言っちゃった。ホント？

けん太： そうです。

今村D： ホントなんですよ～。じゃあ、録音ふっていただきましょう。

けん太： ろくお～ん、スタート！



<録音④ 答え2>

ナレ) 正解は・・・そう、女性の大きな胸。

(絵の先生)

先生：だって初対面の時、何描きたいって言ったら、巨乳って言ったんだもん。

D： そうなんですか？

先生：何描きたいって言ったら、ちっちゃい声で巨乳って。お母さんとお父さんに言わないでおこうなって巨乳の絵を描いた。

ナレ) 実は女性の胸への思いがつのるあまり、けん太さんにはある特殊能力まで身についたんだって。

(裸の女性の絵)



D： これ何ですか。

けん太： グラビアアイドル

兄： けん太が大好きなグラビアアイドルでしょ。すごいね。このグラビアアイドルは別にヌードとかとってないと思うよ。でも、これ何？透視できちゃうの？」

けん太： そう、透視できちゃう。

兄： やるね。

けん太： なんかここから、奥からぴよ～んて、ぴよ～んて。

兄： おっぱい星人だもんな。そりゃしょうがないよ。やっぱり男だからな。

けん太： いやあ、ちょっと余計だよ。アニキ。

はるな愛： お兄さん？今言ってたの。あら～、なんですか？この、ちょっと、おっぱいの絵を。

けん太： すいません。

はるな愛： え～？ ここにもあるんですけど、まあ、なんとも、もうホントにあらわに。あざやかな～。これ、実は、先程録音で言うてたけど、水着の人のグラビアを見て描いたんですか？

けん太： はい。

はるな愛： だれかの？

けん太： ま、だれかのですね。

はるな愛： それは言えないんだ。

けん太： あんまり、ま、言えないですね。

はるな愛： 言えない（笑）で、それをこう、こう想像で？

けん太： はい。想像で。

はるな愛： 見えちゃうんだ。

けん太： なんか見えたんですね。

はるな愛： なんか見えたんです（笑）へ～。でも、ホント、タッチがホントに鮮やかで、なんか、全然ね、あの、いやらしさがなくて、なんかけろっとしてて、いいよね、でも、こういう方、多いのかしら？バストを描きたいとか。

今村D： これがじゃあ、ダウン症の人達、みんなそうかと言ったら、全然そんなことはないんですけど、このクイズをけん太さん作ってくれて、私もそれを制作した訳はですね、先程言ったみたいにすごく

いろんな人がいて、いろんなことを考えているし、けん太さんのように成人してきたら当然恋のこととか、それから性のことももちろん興味がわくで、そういう部分で、なかなかこれまでメディアでは出てこなかったんですけども、彼のようにですね、あっけらかんと話してくれる人がいるということなんで、今回、あえてクイズにしたと。

はるな愛：本人のチョイスでこれをクイズにすると。

今村D：そうですね。

はるな愛：やっぱりね、男の子よね。

今村D：やっぱりこういう風にあの、ダウン症の人と色々な話ができると思うんですよね。

けん太：恥ずかしい。

はるな愛：意外と恥ずかしい？ 今。

けん太：そうですね。

はるな愛：あらためたら。

けん太：はい。でも、まあ、サイコーじゃないかなと思ってます。

♪ジングル

はるな愛：はるな愛の「バリバラR」。今日は、“ダウン症”って何？ってということでお送りしております。

ゲストは、ダウン症のタレント、あべけん太さんです。

けん太：そうで～す。

はるな愛：え～、ダウン症のユニークな世界を知るために、けん太さんについてクイズをいろいろとお答えしてきたんですけども、いよいよ最後？

今村D：はい、ということで第三問が最後の問題なんですけれども、では、フリをお願い致します。

けん太：ろくお～ん、スタート。



<録音⑤ 問題3>

ナレ) 仕事から帰ったけん太さん。

けん太：おかん、ただいま。

ナレ) 実はけん太さんはおとし事故で母の志津子さんを亡くした。以来、家事など一人でこなすことも増えた。そして、けん太さんは、それらの行動の順番を細かく決めている。

帰ってくると、まず、うがい。そして、着替え。

裸のまま歯磨き。そのままお風呂かと思ったら……。ウエットティッシュで体をふくだけ。

D： シャワーを浴びればいいんじゃないの？

けん太：まあ、そこはちょっと入らない。

D： 入らないの？何？順番が違うから？

けん太：はい。

D： 汗かいたんだったら入れればいいじゃん。

けん太：ああ、気持ちいい。

（弁当箱を洗う）

ナレ）行動の順番を変えることは決していない。家族はルーティーンと呼んでいる。

（米を炊く）

こうしたスタイルの方が、生活しやすいというダウン症の人たちも意外と多いんだって。

（夕飯を食べてから入浴）

寝る前には、動画を見ながら40分間の熱唱。

ON けん太さん歌う

D： これも日課なの？

けん太：はい。

ナレ）さて、ここからが問題。

けん太さんのルーティーンの一つ、日記。

（パソコンに向かう）

ナレ）10年前から毎日続けている。

その日にどんな仕事をして、何があったのか、細かく記録。

そして、終わりの方に、必ずある一文を書くという。

さて、**けん太さんが毎日書く一文とは、一体何？**

はるな愛：いろいろありましたけど。ね、ちょっとびっくりしたんですけど、お母様亡くなられてね。

けん太： そうなんです。死んじゃいまして。

はるな愛：でも、おうちのことをお母さんの代わりに、お米たいたりとか、全部。

けん太： 全部してます。

はるな愛：それを、順番をこうふむっていうことが、ルーティーンて言うんですね。

けん太： はい。全部のことを、ルーティーンと。

今村D： ちょっと録音でもね、流したんですけども、なかなか順番が全部決まっててですね、それを変えられないみたいな、順番は絶対に変えないんだよね。

けん太： はい。変えないですね。

今村D： ダウン症の方々、他にも取材をしたんですけども、もちろん全ての人がそうっていう訳ではないんですけども、すごくこうそういう積み重ねでやっていくことに安心感を得たりとか、そういうスタイルの暮らし方が好きだった方は結構いらっしゃるっていうのは、取材実感としてはありますね。

はるな愛：ふ～ん。すご～い。最後、一言添える文。

今村D： 日記もずっと10年ぐらい、あの、続けて、毎日欠かさず、書いてるんで

はるな愛：そいで最後に一言何か添えるってことでしょ。

今村D： そうですね。

はるな愛：わかりました。いいでしょうか？ 答えていい？

けん太： はい。

はるな愛：えっと、最後に、一日のまとめを川柳にする。

けん太： 川柳には・・・川柳ではないですね。

はるな愛：え？ なんか、じゃあ、えっと～、なんかあの、自分のモットーみたいな、あの、座右の銘みたいな。

けん太： 座右の銘はないですね（笑）

今村D： 結構まあ、関係あるかもしれないですね。けん太さんの生き方だったりとか、今まで見てきた、あの、毎日の過ごし方にすごく関係ある文章かなと思いますね。

はるな愛：最後に、今日一日のサイコーでしたみたいな感想の。

けん太： 近い！

はるな愛：近い？

今村D： そうですね。今日一日まで合ってます。

はるな愛：今日、一日・・・じゃあ、今日一日の点数。

けん太： あ、点数は・・・書かないですね～。

はるな愛：ちょっと待って。そろそろじゃあ、正解見てみましょうよ。ね、正解を教えて。

けん太： わかりました。録音、スタート。



<録音⑥ 答え3>

ナレ) 正解は、

けん太：今日は一日楽しかった。

ナレ) 日記を始めて10年。1日も欠かさず、この一文を書くことにこだわってきた。

「毎日を楽しく生きたい」、けん太さんの強い思いだ。

それは、母の死という最も悲しい出来事を経ても、変わらなかった。

けん太：母ちゃん、俺を産んでくれてセンキュー。

(写真に話す)

ナレ) 母がいなくても、毎日を楽しく。いつも周りを明るくするけん太さんの姿に家族は支えられてきた。

けん太：幸せだなあ、俺って。

父： みんなでいじってかわいがってるのもあるし、気づかされること、え、人間、本来こうなんだよね、とかね。こういう子たちをわからない子は、え、悲しさわかってないの？って言う人がいたんだけど、そうじゃないんですよ。もうすごいわかってるわけですよ。もう腰ぬけるわ、どれだけすごいショックといやだったかと思うし、よく耐えたなと思う。それはすごいなと思う。

けん太：病院で腰ぬけちゃったからね。

ナレ) 実は、おとしし母親が亡くなった日の日記にも、けん太さんは、いつもの一文を書き加えていた。

けん太：訃報。ぼくの母ちゃんが交通事故で亡くなってしまいました。千葉県病院に行きました。

悲しかったです。本当に残念です、と。

ナレ) 腰がぬけて、立ち上がれないほどの衝撃だった母の死。

本当は全く楽しくなっていかなかったけれど、この一文を書かずに、気持ちを保てなかったという。

ON (ドリカムの歌)

(リビングにはけん太さんが描いたお母さんの絵が飾られている。)



けん太 : これですね、いつも。

(お母さんが亡くなったあと、けん太さんがルーティーンのひとつに加えたことがある。)

ON (歌うけん太さん)

(それは、お母さんの好きだったドリカムの曲を歌うこと。これまで、悲しみを隠して無理に明るくふるまおうとすることも多かったけん太さん。悲しいときは泣いてもいい。)

父、俊秀さんの言葉を聞いて以来、けん太さんは泣くのを我慢するのをやめた。)

ON (歌うけん太さん)

はるな愛 : もう、お母さんのとき、亡くなったとき、に、最後の文字って、いつも楽しかったってしめる文字って言うのは、書けました？ すぐ。

けん太 : もう書けたんですね。まあちょっとまあ、考えてみたら、今日一日って、楽しくではなかったって書こうと思ってたんですけど、やっぱりもう仕事も頑張って、まあ、楽しく生きようと思ったので、まあ、楽しかったということを書こうと思ったんですね。

はるな愛 : すごいね。ホントに、お父さんが、あの、この録音の中で気付かされることを言って、ホントおっしゃってたけど、ホントですね。

今村D : というか、ま、どんな方でも、ま、あの、悲しいことがあったら、悲しいですし、ただそういう中ですごくやっぱり楽しく、生きようっていう風にされてるっていうのは、すごくやっぱりけん太さんを取材してて、日々感じることで、それがやっぱり日記の一文にも、あらわれていて、それは、けん太さんもそうだし、ダウン症の方々ホントに人が大好きで、いつも、あの、楽しませてくれて、で、ちょっとね、嫌なことをでもね、ガマンしちゃう。ダウン症の人達は意外とちょっと多いことは多いんですけども、

はるな愛 : いやでも、その、楽しかったっていうホント楽しいときの、言葉、私たちは受ける言葉とは違うやっぱり意味合いて、ね、けん太くんの書く楽しかったっていうのは、もっともっと深くて、分厚い、思い入れのある言葉でしょ。

今村D：　そうですね、けん太さんが楽しく生きようとしてる、楽しく生きたいなと思ってる想いが、毎日のその一文に込められてるんじゃないかなっていう風にお父さんおっしゃってましたね。

はるな愛：　すてき～。

けん太：　当然です。

はるな愛：　ほんとね～。ホントそうですね。楽しく生きないとね。

けん太：　そうですね。

はるな愛：　いやあでもよかったです。いろいろね、なんか、いろんなこと、ま、けん太さんの情報ですけどね、聞いたこともたくさんあるし、ダウン症のこともちょっとわかったかなっていう気になりました。

けん太：　はい。

はるな愛：　でも、まだまだ、いろんなやっぱりね、人の意見も聞きたいなっていう想いも、思いましたね。

今村D：　そうですね、ま、あの、もちろんダウン症の方々、みんなけん太さんみただってことじゃなくて、やっぱりすごく人それぞれなので、ま、これから、私たちがいろんな人に出てもらって、どんどんどんどん、知っていつてもらえたらなっていう風に。

はるな愛：　そうですね。今日のけん太くんがきっかけですもんね、みんなね。

けん太：　ありがとうございます。

はるな愛：　ありがとう。ホントに。ということで、また、ぜひ、スタジオにも遊びに来て下さい。

けん太：　ありがとうございます。

はるな愛：　さて、はるな愛の「バリバラR」いかがでしたか？感想やメッセージをお待ちしています。また番組ではみなさんの障害にまつわるエピソードや、あるある話「バリバナ」を募集しています。宛先は郵便番号540-8501 NHK大阪放送局「バリバラ」の係です。メールは、番組ホームページから送っていただけます。ホームページのアドレスは、nhk.jp/baribara スペルは、bari bara です。来週の「バリバラR」もどうぞお楽しみに。はるな愛でした。バイバイ。###